

温泉分析書

1. 申請者
住所 福島県福島市土湯温泉町字鷺倉山1番2
氏名 株式会社野地温泉ホテル

2. 源泉名及び湧出地
源泉名 野地温泉、2号、3号源泉混合泉（蒸気造成泉）
湧出地 福島県福島市土湯温泉町字鷺倉山1番2、造成場所にて採水

3. 湧出地における調査及び試験成績
(1) 調査及び試験者 分析機関の名称 一般社団法人 福島県薬剤師会 氏名 後藤 幸永
(2) 調査及び試験年月日 令和元年11月18日
(3) 泉 温 61.0℃（調査時における気温 12℃）
(4) 造 成 量 307 L/min（掘削自噴（蒸気造成泉））
(5) 知覚的試験 無色・澄明・強硫化水素臭・弱酸味・僅かに白色沈積物を認める・ガス発生あり
(6) pH 値 6.1
(7) 電気伝導率 9.6 mS/m(25℃)

4. 試験室における試験成績
(1) 試験者 分析機関の名称 一般社団法人 福島県薬剤師会 氏名 渡邊 智子 菅井 正子 後藤 幸永
(2) 分析終了年月日 令和元年12月11日
(3) 知覚的試験 無色・澄明・弱硫化水素臭・弱酸味・僅かに白色沈積物を認める（採水後72時間）
(4) 密度 0.9982（20℃/4℃）
(5) pH 値 6.17
(6) 蒸発残留物 51.1 mg/kg（110℃）

5. 試料 1kg 中の成分、分量及び組成

(1) 陽イオン

成 分	ミリグラム (mg)	ミリバール (mval)	ミリバール% (mval%)
ナトリウムイオン (Na ⁺)	3.4	0.15	28.85
カリウムイオン (K ⁺)	0.4	0.01	1.92
マグネシウムイオン (Mg ²⁺)	1.1	0.09	17.31
カルシウムイオン (Ca ²⁺)	5.5	0.27	51.92
アルミニウムイオン (Al ³⁺)	0.0	0.00	0.00
マンガンイオン (Mn ²⁺)	0.0	0.00	0.00
鉄(II)イオン (Fe ²⁺)	0.0	0.00	0.00
陽イオン 計	10.4	0.52	100

(2) 陰イオン

成 分	ミリグラム (mg)	ミリバール (mval)	ミリバール% (mval%)
ふっ化物イオン (F ⁻)	0.2	0.01	1.39
塩化物イオン (Cl ⁻)	1.2	0.03	4.17
硫化水素イオン (HS ⁻)	1.8	0.05	6.94
チオ硫酸イオン (S ₂ O ₃ ²⁻)	2.6	0.05	6.94
硫酸イオン (SO ₄ ²⁻)	5.1	0.11	15.28
炭酸水素イオン (HCO ₃ ⁻)	28.7	0.47	65.28
炭酸イオン (CO ₃ ²⁻)	0.0	0.00	0.00
陰イオン 計	39.6	0.72	100

(3) 遊離成分

①非解離成分

成 分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
メタけい酸 (H ₂ SiO ₃)	29.0	0.37
メタほう酸 (HBO ₂)	0.1	0.00
非解離成分 計	29.1	0.37

②溶存ガス成分

成 分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
遊離二酸化炭素 (CO ₂)	97.0	2.20
遊離硫化水素 (H ₂ S)	16.4	0.48
溶存ガス成分 計	113.4	2.68

溶存物質（ガス性のものを除く） 0.0791 g/kg
成分総計 0.1925 g/kg

(4) その他の微量成分

成 分	ミリグラム (mg)	成 分	ミリグラム (mg)
総ひ素 (As)	0.005未満	総水銀 (Hg)	0.0005未満
銅イオン (Cu ²⁺)	0.01未満		
鉛イオン (Pb ²⁺)	0.005未満		

6. 泉質

単純硫黄温泉（硫化水素型）

（旧泉質名 単純硫化水素温泉）
（低張性－中性－高温泉）

[揭示用泉質名 硫黄泉]

7. 禁忌症、適応症等

（「温泉分析書別表」中5に記載する）

令和元年12月11日

登録分析機関の名称
登録番号
所在地
代表者の氏名

一般社団法人 福島県薬剤師会
福島第1号
福島市蓬萊町2丁目2番2号
会長 町野 紳



温泉分析書別表(浴用)

- 源泉名 野地温泉、2号、3号源泉混合泉(蒸気造成泉)
- 湧出地 福島県福島市土湯温泉町字鷺倉山1番2
- 温泉分析申請者 株式会社野地温泉ホテル
- 泉質名 単純硫黄温泉(硫化水素型)
(旧泉質名 単純硫化水素温泉)
(揭示用泉質名 硫黄泉)
- 分析結果による療養泉分類に基づく禁忌症、適応症等は環境省自然環境局長通知(平成26年7月1日)環自総発第1407012号によれば次のとおりである。

	一般的禁忌症(浴用)	泉質別禁忌症(浴用)
禁忌症	病気の活動期(特に熱のあるとき)、 活動性の結核、 進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体衰弱の著しい場合、 少し動くとき息苦しくなるような重い心臓又は肺の病気、 むくみのあるような重い腎臓の病気、消化管出血、 目に見える出血があるとき、 慢性の病気の急性増悪期	皮膚又は粘膜の過敏な人、高齢者の皮膚乾燥症
	一般的適応症(浴用)	泉質別適応症(浴用)
適応症	筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり(関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経症、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期)、 運動麻痺における筋肉のこわばり、 冷え性、 胃腸機能の低下(胃がもたれる、腸にガスがたまるなど)、 軽症高血圧、 耐糖能異常(糖尿病)、 軽い高コレステロール血症、 軽い喘息又は肺気腫、 痔の痛み、 自律神経不安定症、ストレスによる諸症状(睡眠障害、うつ状態など)、 病後回復期、 疲労回復、健康増進	アトピー性皮膚炎、尋常性乾癬、慢性湿疹、 表皮化膿症、 末梢循環障害

浴用の方法及び注意

温泉の浴用は、以下の事項を守って行う必要がある。

ア. 入浴前の注意

- 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。
- 過度の疲労時には身体を休めること。
- 運動後30分程度の間は身体を休めること。
- 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1人での入浴は避けることが望ましいこと。
- 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。
- 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、あらかじめコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。

イ. 入浴方法

- 入浴温度 高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、42℃以上の高温浴は避けること。
- 入浴形態 心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。
- 入浴回数 入浴開始後数日間は、1日当たり1～2回とし、慣れてきたら2～3回まで増やしてもよいこと。
- 入浴時間 入浴温度により異なるが、1回当たり、初めは3～10分程度とし、慣れてきたら15～20分程度まで延長してもよいこと。

ウ. 入浴中の注意

- 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。
- 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。
- めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。

エ. 入浴後の注意

- 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心がけること(ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質(例えば酸性泉や硫黄泉等)や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流した方がよいこと)。
- 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。

オ. 湯あたり

温泉療養開始後おおむね3日～1週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。

カ. その他

浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。

この別表は、温泉法第18条による揭示に必要な参考資料となるものである。